第 78 回 国立大学病院看護部長会議

【実践報告】

浜松医科大学医学部附属病院における ファーストナースの活動

～特定行為研修修了者の活躍推進に向けて～

国立大学法人 浜松医科大学医学部附属病院
副病院長／看護部長 佐々木 菜名代

2026.5.22

施設概要



浜松医科大学医学部附属病院

特定機能病院　病床数613床　37診療科

一般病棟576床（ICU12床・HCU8床・NICU9床・GCU12床）

精神科病床37床

※2025年度実績

病床稼働率：90.0%

平均在院日数：10.9日

手術件数：9,327件　1日平均外来患者数：1,512.5人

【病院理念】

患者さんの人権を尊重し、地域の中核病院として安全で良質な医療を提供する。

さらに、大学病院として高度な医療を追求しつつ優れた医療人を育成する。

浜松医科大学医学部附属病院
HAMAMATSU UNIVERSITY HOSPITAL

特定看護師の活躍に向けた取り組み

※特定看護師・・・当院における特定行為研修修了者の呼称

特定看護師の育成を推進するための取り組み

- 特定行為研修推進のための体制構築
- 継続的な研修修了生の輩出

特定看護師活躍の機会（場）の創出

- 特定看護師による組織横断的な活動
- 特定行為実践の促進

特定看護師のさらなる活躍に向けて

- 各病棟各勤務帯に特定看護師が勤務する体制の構築
- 特定看護師の個性・長所を活かした配置
- RRS(Rapid Response System)を深化させたケアの視点を重視した介入
- 特定看護師の地域における活躍

浜松医科大学

特定看護師の育成を推進するための取り組み

特定看護師の育成

- **2019年4月　看護師特定行為研修センター 開設**
  - 病院機能・社会情勢の変化に対応して活躍できる看護職を育成する
  - 大学病院として地域のニーズにこたえていく

- **「特定看護師の現場（自部署）における具体的な活用」「医療・看護の質向上への寄与」について、看護師長会議内でグループ・ワークを実施**
  - 毎年10名程度の当院職員が研修を受講

- **特定行為研修受講時の支援体制の構築**
  - 受講料を奨学金として貸与
  - 勤務扱いでの研修受講（講義、eラーニング受講、演習など）

特定看護師の育成

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
特定行為研修受講者数	2人	12人	10人	15人	11人	12人	10人	8人
（下段：区分追加の者）	0人	0人	0人	4人	0人	3人	5人	5人
奨学金貸与者数	奨学金制度なし	奨学金制度なし	奨学金制度なし	15人	10人	12人	10人	8人
勤務扱いでの受講総日数	70日	502日	445日	307日	543日	595日	450日	314日

看護キャリア開発センター設立

- **2023年より認定看護管理者教育課程ファーストレベル開講を機に「看護キャリア開発センター」として組織統合**
  - ■ センター長が医師から看護職に

- **キャリア開発の一層の推進と看護の質向上を目指す**
  - ■ 院内のみならず地域医療機関の看護師を研修生として積極的かつ継続的に受け入れることにより、地域の看護力の底上げに寄与する

- **看護師特定行為研修修了者（特定看護師）は58名**（2026.4.1現在）
  - ■ 国立大学病院の中で、第1位の人数を有している（2025.6.1時点）

浜松医科大学

特定看護師の活躍の機会（場）の創出

特定看護師の課題

■特定行為実践、特定行為実践に向けたトレーニングの実施状況にばらつきがある（開始できていない特定看護師が多数いる）

■特定看護師は、各部署での特定行為実践にとどまり、臨床推論や病態判断能力を十分に発揮できていない

■病院全体の患者を対象とした組織横断的な活動への期待があるが、十分に活かせていない

組織へ貢献できるための体制を整備し、医療・ケアの質を高めるために特定看護師が能力を十分に発揮できるようにしたい

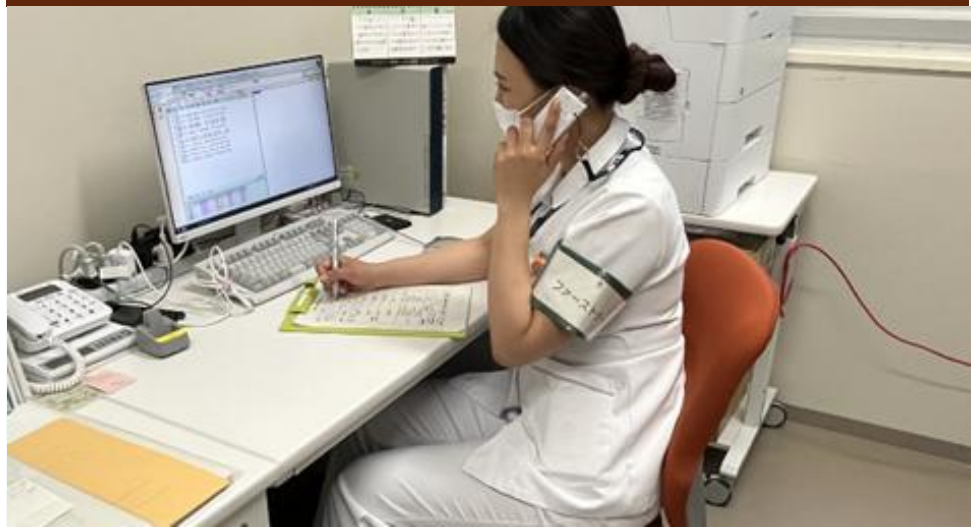
特定看護師による組織横断的な活動

特定看護師が特定行為のほかに、**2つの組織横断的取り組み**を実践している。

① 院内迅速対応システム
Rapid Response System (以下、RRS)



② 救急外来診療の電話対応
ファーストナース



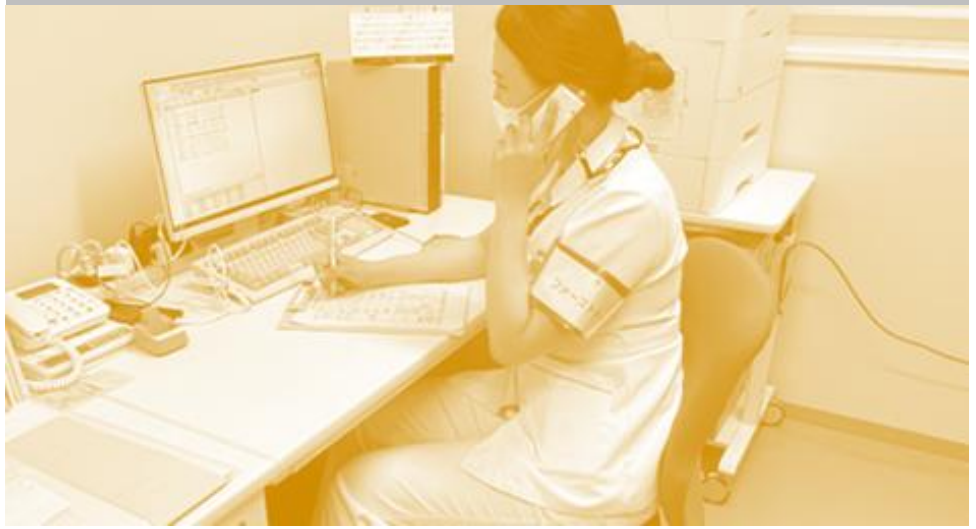
特定看護師による組織横断的な活動

特定看護師が特定行為のほかに、**２つの組織横断的取り組み**を実践している。

① 院内迅速対応システム
Rapid Response System (以下、RRS)



② 救急外来診療の電話対応
ファーストナース



浜松医科大学医学部附属病院
HAMAMATSU UNIVERSITY HOSPITAL

RRSとは？

院内迅速対応システム

・急変した患者の経過を振り返って検討すると、何時間も前から状態悪化の兆候があることが多い
・院内であっても心肺停止を起こしてしまうと予後不良な事が多い
・急変（心肺停止）に至る前に兆候をとらえて状態を改善させる事が望ましい

当院のRRS起動基準（危険なバイタルサイン）

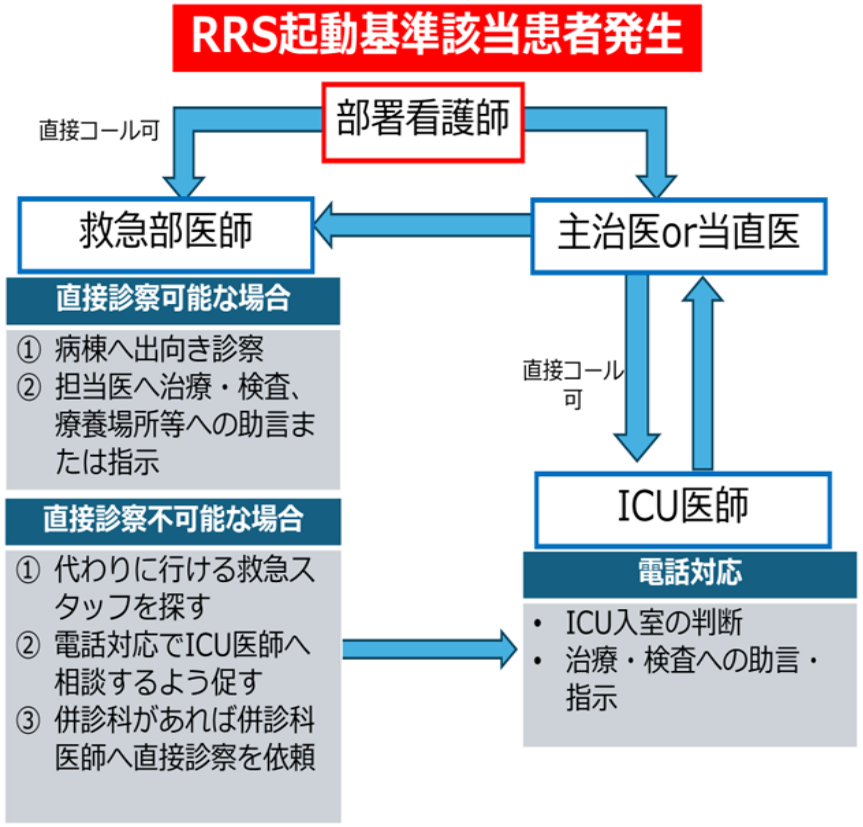
・下記の基準に一つでも当てはまる場合は、RRSに報告する

項目	内容	指標
全般事項	スタッフが臨床的に不安だと思う状態	
呼吸	呼吸数（回）	30以上　8以下
	SpO2　（%）	90以下（酸素投与下）
循環	血圧（mmHg）	90以下
	心拍数（回/分）	130以上40以下
	尿量（ml/4時間）	50以下
意識レベル	急激な低下	

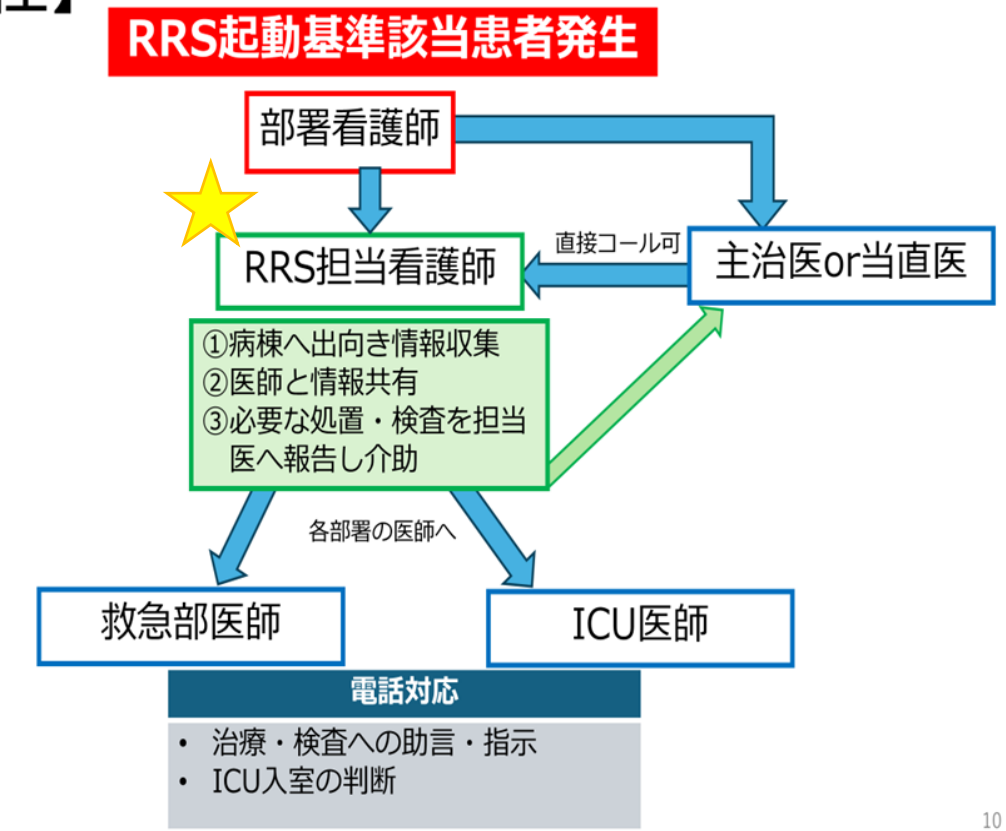
ＲＲＳ体制

① 院内迅速対応システム　RRS

【導入当初】«RRS該当患者発生時の対応体制»



【現在】«RRS該当患者発生時の対応体制»



浜松医科大学医学部附属病院
HAMAMATSU UNIVERSITY HOSPITAL

取り組み内容

① 院内迅速対応システム　RRS

2021年11月 ～ 2023年11月

平日日勤	土日・祝日・夜勤
各病棟へのRRSラウンド 適宜RRS要請対応	通常の看護業務を兼務 適宜RRS要請対応

2023年12月 ～ 現在

終日
24時間体制でRRSを稼働 各勤務帯で1回ずつ各病棟へのRRSラウンド実施 RRS要請だけでなく、人工呼吸器等の相談にも対応

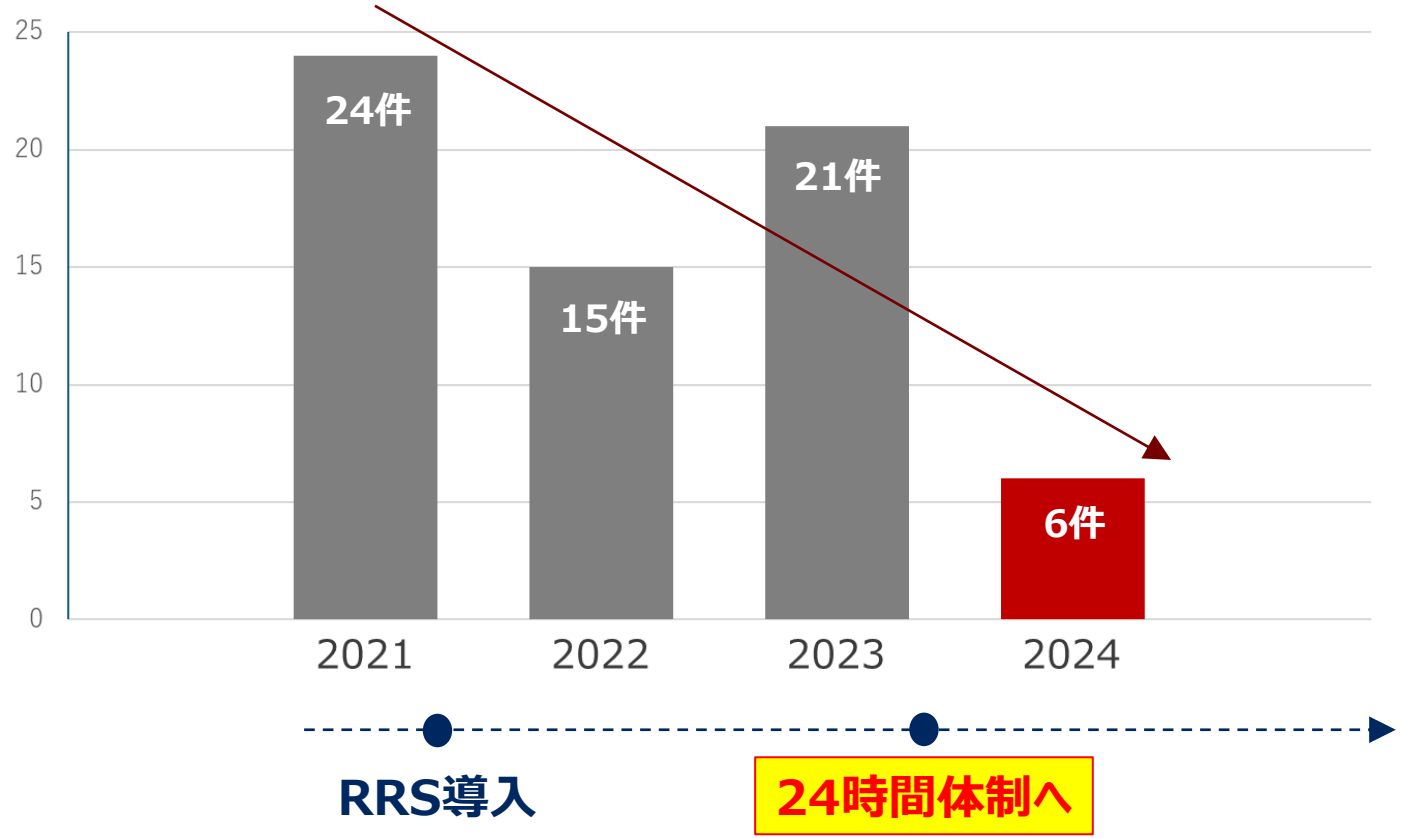


浜松医科大学医学部附属病院
HAMAMATSU UNIVERSITY HOSPITAL

成果

① 院内迅速対応システム　RRS

病棟でのAED使用件数（≒急変による心停止の件数）が減少



RRS相談症例
平均39件／月

早期予防的介入で
急変を未然に防ぐ

コードブルー件数減少

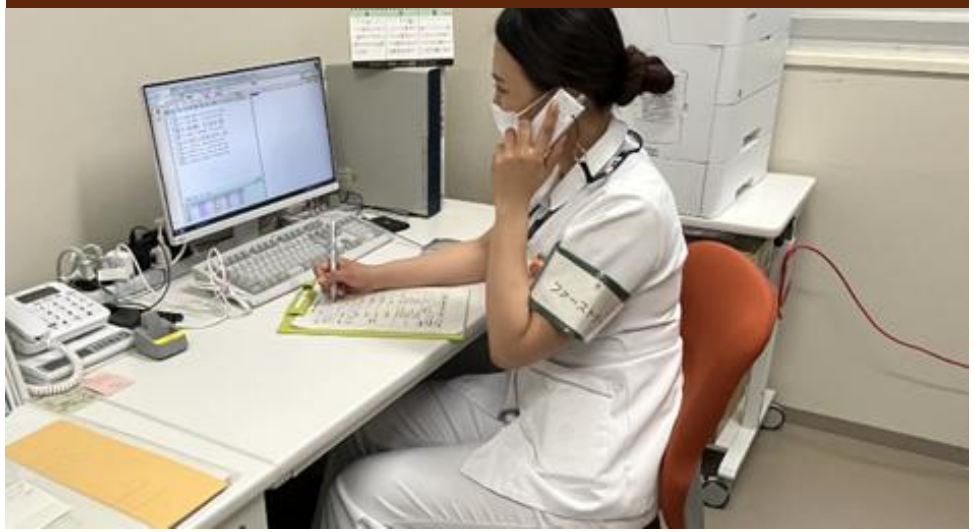
取り組みの内容

特定看護師が特定行為のほかに、**２つの組織横断的取り組み**を実践している。

① 院内迅速対応システム
Rapid Response System (以下、RRS)



② 救急外来診療の電話対応
ファーストナース



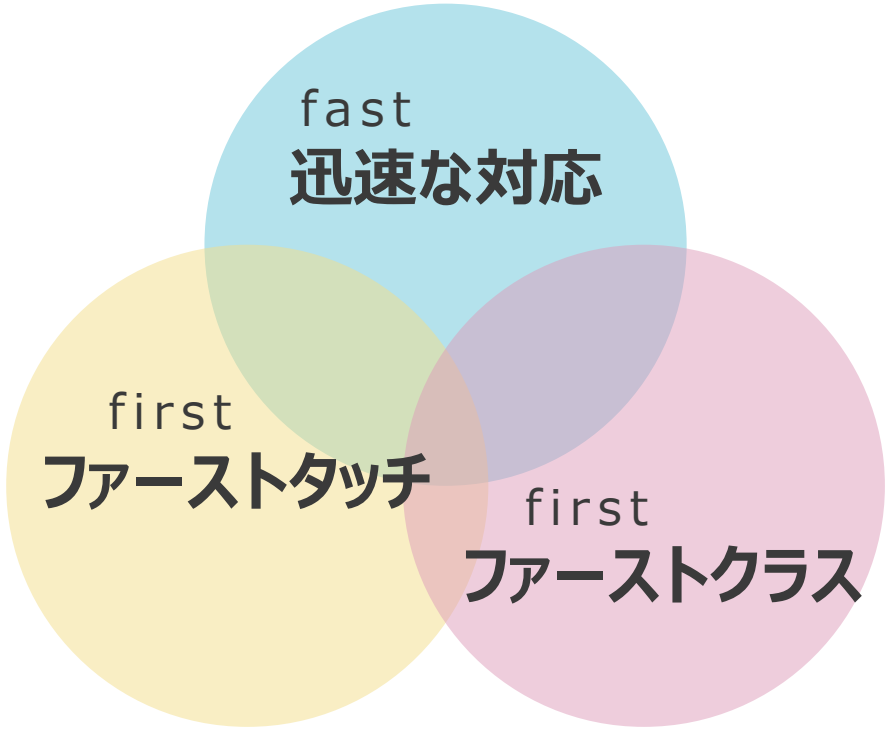
浜松医科大学医学部附属病院
HAMAMATSU UNIVERSITY HOSPITAL

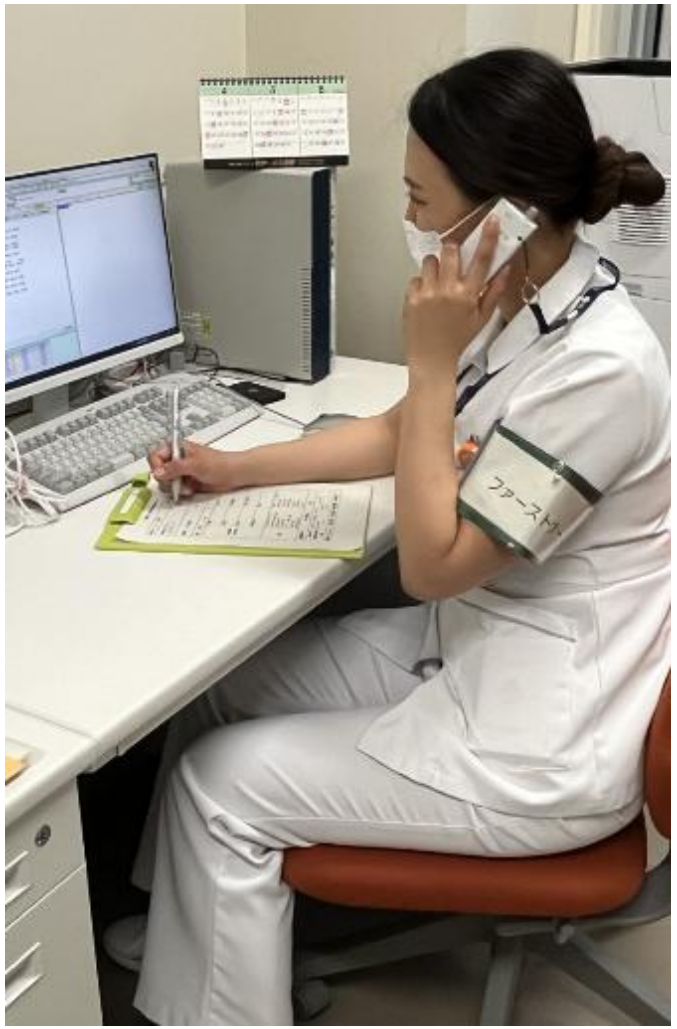
取り組みの内容

② 救急外来診療の電話対応　ファーストナース

ファーストナース

:救急外来にて患者からの外線電話に対し、
「症状相談」「受診判断」を行う特定看護師



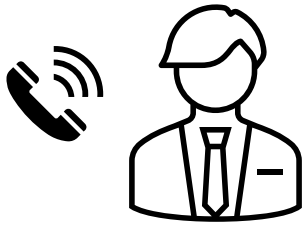


浜松医科大学医学部附属病院
HAMAMATSU UNIVERSITY HOSPITAL

取り組みの内容

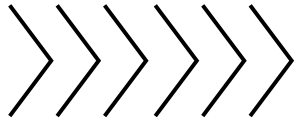
② 救急外来診療の電話対応　ファーストナース

従来の患者電話相談の体制 (休日夜間)



事務当直

主訴や現病歴など
詳細な病状の聞き取り





各診療科の当直医／オンコール医師

2022年　5月～：医師の働き方改革推進で 新当直体制がスタート

旧 体制	大学病院として各診療科に当直医を配置していた	当直医 平均15名／日
新 体制	院長代行・内科当直・外科当直・専門科当直のみ配置 その他診療科はオンコールとして在宅待機	当直医 平均　8名／日

当直医を減らすことで、様々な課題がみえた

取り組みの内容

② 救急外来診療の電話対応　ファーストナース

従来の患者電話相談の体制 (休日夜間)

2022年　5月～:医師の働き方改革推進で 新当直体制がスタート



事務当直

主訴や現病歴など
詳細な病状の聞き取り



各診療科の当直医／オンコール医師

2023年12月～:**ファーストナース導入**



事務当直

「病状相談」
「受診希望」
ファーストナース
へ取り次ぎ



ファーストナース



当直医／オンコール医師へ
受診や対応について相談



経過観察や救急要請など
自律した判断でアドバイス

適切でスムーズな受診となり、病院の診療機能が向上

浜松医科大学医学部附属病院
HAMAMATSU UNIVERSITY HOSPITAL

成果 1

② 救急外来診療の電話対応　ファーストナース

患者が症状の相談にのってもらうための受診が減少→患者負担が軽減

- 平均368件／月 (318~428件) の電話対応
- 軽度の症状や緊急性が低い症状での相談
  不安に対して丁寧に訴えを聴き、具体的な対処方法を伝えることで、
  患者の安心感につながり、休日夜間での緊急性の低い救急受診が減少
  経過観察となる患者は 平均100件前後／月
- **救急受診が必要な**患者が適切でスムーズな診療を受けられる
- ファーストナースの対応が更に自律し、結果的に医師の負担も軽減している

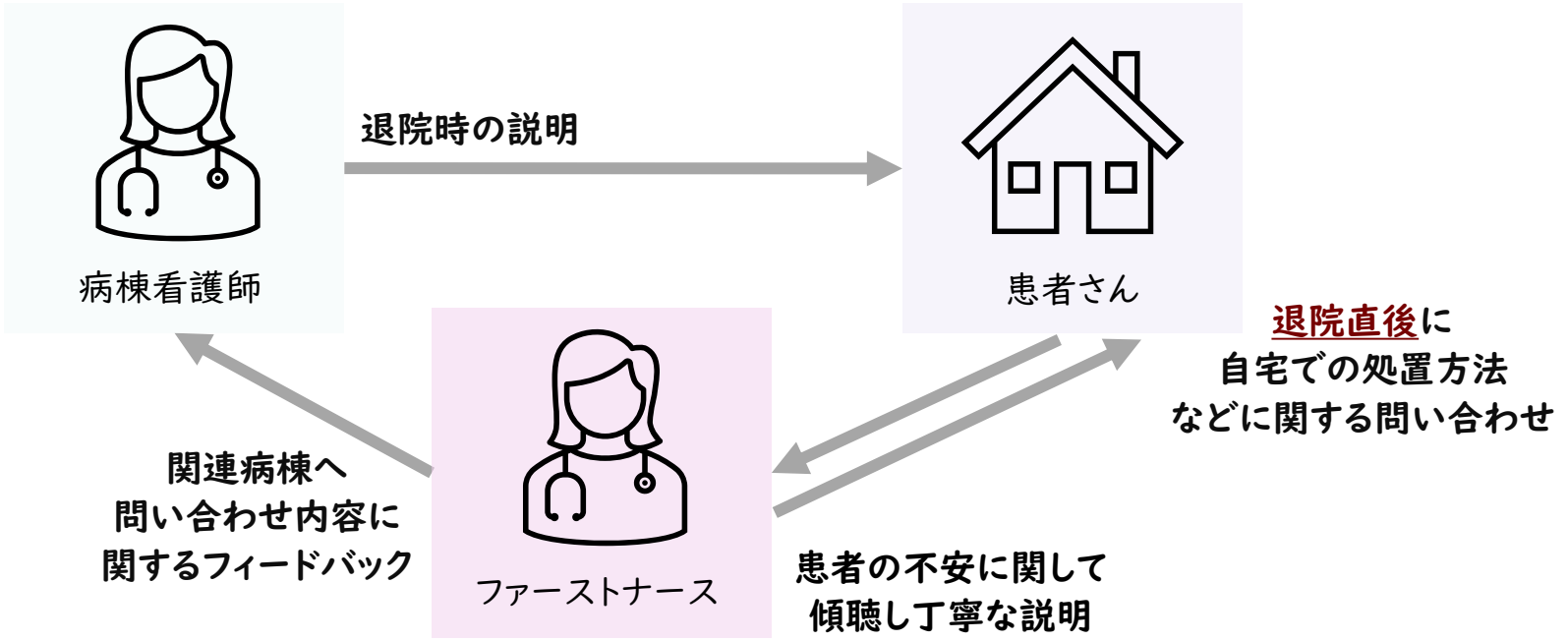
医師への相談件数	導入当初　115件／月 **現在**　**50件／月**

浜松医科大学医学部附属病院
HAMAMATSU UNIVERSITY HOSPITAL

成果 2

② 救急外来診療の電話対応　ファーストナース

ファーストナースから病棟へのフィードバック　病棟の看護の質が向上



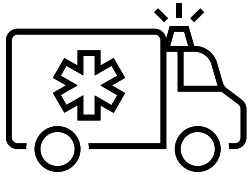
退院後の不安がわかり、**退院時に具体的な説明をする必要性を病棟が理解**

☞病棟の看護の質向上に寄与している

成果 3

② 救急外来診療の電話対応　ファーストナース

在宅療養をしているターミナル期の患者への対応



自宅で最期を迎えることを希望している患者さんでも、
状態が悪化した際に訪問看護師や家族が慌てて救急要請をしてしまう
＞患者が望む場所で最期を迎えることができなかった事例



ファーストナース

臨床推論を用いつつ、意思決定支援を含めたアドバイスをすることで、
ご家族の不安軽減につながり、自宅で落ち着いて対処可能に
＞救急要請ではなく、望んでいた通りの対応が可能となった事例

患者の症状や対応で不安を抱えた**受診相談にファーストナースが対応**することで
ターミナル期の患者が望む療養生活を長く続けられるための一助となっている

浜松医科大学

特定看護師のさらなる活躍に向けて

今後の展望

1. 各病棟各勤務帯に特定看護師が勤務する体制の構築

■ 継続的に特定看護師を育成し、**各病棟で各勤務帯に特定看護師が勤務**し、臨床判断能力を活かしながら実践を行うことにより、部署単位で看護の質向上を目指す

2. 特定看護師の個性・長所を活かした配置

■ **特定看護師の個性・長所を活かし**、最大限に能力を発揮し、組織に貢献できるような配置、役割分担を行う

- 部署への配属、診療科への配属、専従での組織横断的な特定行為の実践 など

※診療科配属：心臓血管外科(令和2年～)，救急部(令和3年～)，消化器外科(令和6年～)

今後の展望

3. RRSを深化させたケアの視点を重視した介入

■ DNARが取得されている患者への介入などにおいて、苦痛緩和のための介入と倫理的視点をもった意思決定支援状況の共有など、Ns to Ns のシステムを活かした**ケアの視点を重視した介入**を推進する

4. 特定看護師の地域における活躍

■ ファーストナースが地域からの相談に対応し、患者のACPを尊重できるよう訪問看護師等との連携を推進していく

■ 特定看護師が自宅を訪問するなどして、可能な限り住み慣れた地域で、患者が**自分らしい暮らしを人生の最期まで**続けることができるよう支援する



ご清聴ありがとうございました